

福祉×伝統産業×ネットワーク

関係者とベトナム流の協力関係を築き
障がい者のやりがいと顧客を同時に確保

≡(★注目ポイント★)≡



1 カスタマーケアサービスに注力した結果、学校や大学、工場などから保護服や制服などの仕立ての注文が増加

2 長期的に見て持続可能ではない「流行」には乗らずに、自分たちの強みを活かして常に新しいモデルの商品を模索

3 小規模なテーラーショップと材料や仕立ての注文を共有しつつ、出荷が時間内に完了することを保証するなど、強固なサプライチェーンを構築

ホープセンター Hue

<http://hopecenterhue.com.vn/>
(ベトナム国フエ省フエ市)

フエ市人民委員会※
バオラ竹細工の里

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

所在地 ベトナム国フエ省フエ市

TEL +84-989635727

開設年 平成11(1999)年

実施事業 就労継続支援A型に類似した事業
(定員45人、現員35人)

主たる障がい 知的・身体・聴覚

利用者の平均年齢 30歳

福祉事業活動における
直接支援職員数 10人

目標工賃達成
指導員の配置 無



※ フエ市人民委員会／地方の行政組織

概要

ホープセンター Hueは平成11(1999)年より、学業を終えた障がい者の就労が困難であるという問題の解決に挑戦しました。障がい者を直接雇用し安定した仕事を提供することを目的に、ベトナムの伝統産業である繊維産業(学校の制服や病院のユニフォーム・かばんなどを製作する縫製業)や竹細工の製作を行っています。

SELP Vision 2030



2 4



7

利用者数と活動日数 (令和3年9月実績)

1日以上参加した利用者数 35人

活動日数 26日

参加した延べ人数 910人

利用者の所属 | 就労継続支援A型に類似した事業

開始までの経緯

平成11年、ホープセンター Hueは、学業を終えた障がい者の就労が困難であるという問題に対して、障がい者を直接雇用し安定した仕事を提供することを目的に、センターを立ち上げました。立ち上げ後は知人や地元の行政組織に同センターを周知。積極的な広報や関わりは、フエ市人民委員会やバオラ竹細工の里等の組織とのマッチングにつながりました。



ホープセンター Hue

具体的な取り組み

フエ市人民委員会を中心とした行政組織やバオラ竹細工の里など、さまざまな組織・企業と連携し、センターの障がい者スタッフがベトナムの伝統産業に従事しています。具体的には、学校の制服や病院のユニフォーム・かばんなどの縫製業と竹細工の製作です。

組織・企業とのこの協力関係は、契約書や公式文書ではなく、両者の間の信頼関係の下に成り立っています。ベトナムには人間関係に支えられたビジネスが各地で広がっているといえます。

同センターで働く障がい者スタッフに、専門的な技術をもつスタッフが仕立てや手工芸品の職人技術を伝える指導も行われています。

製品は顧客からのニーズに沿って製造しており、丁寧な取り組みが顧客との信頼関係を構築し多くの注文を受けることにつながりました。

職員の役割

本事業に携わる
職員の人数

5人

障がいのあるスタッフが製作作業の能力やスキルを身につけることができるよう、職員一人ひとりが全力でサポートしており、多くの製品を迅速に製作するプロセスに精通しています。

具体例として、テーラーになりたい人のためのトレーニングプログラムが提供されていることを挙げるができます。



竹細工を製作する

生産設備・備品等

フエ市人民委員会（地方の行政組織）の支援を受け、土地、建物などを準備しました。また、センターは新設当初、フエ労働・傷病兵・社会局からミシン10台の提供を受けました。

そのほか非営利団体からセンターで使用するさまざまな機械設備の購入のため、日本円で約120万円の貸し付けを受けたといえます。

工夫していること、心がけていること

他組織・団体との 共同による 製品の製作

ベトナム中部は伝統産業としての繊維産業が盛んです。センターでもさまざまな組織・団体と共同で仕事を担うネットワークを作り、常に仕事を得られる仕組みを確立しています。

例えば、同センターに注文が殺到した場合は、一部の業務を他組織に依頼します。他組織・団体が同センターに注文の一部を依頼することもあります。この仕組みがあることにより、製品を時間内に完成させるだけでなく、新たな雇用機会の創出を実現することができるというわけです。

また、双方とも作業内容をフィードバックすることがあり、製品の品質向上につながっています。



縫製作業で使用するミシン

課題と対応

課題 持続可能な
製品の改良・
新規開発

対応 センターは、市場や顧客のニーズに対応するため、常に製品の改良・新規開発に励んでいます。改良・開発にあたっては、障がい者スタッフを含めたさまざまな方の知識や経験、価値観をもち寄り、海外の市場を参考にしたり、独創的なデザインを加えたりしながらすすめています。

一方で、世間の流行に乗った新製品の開発に安易には取り組みません。同センターがもつ能力や流行りの製品の製造が持続可能であるか否かという点を考慮しながら改良や商品開発を行うといいます。

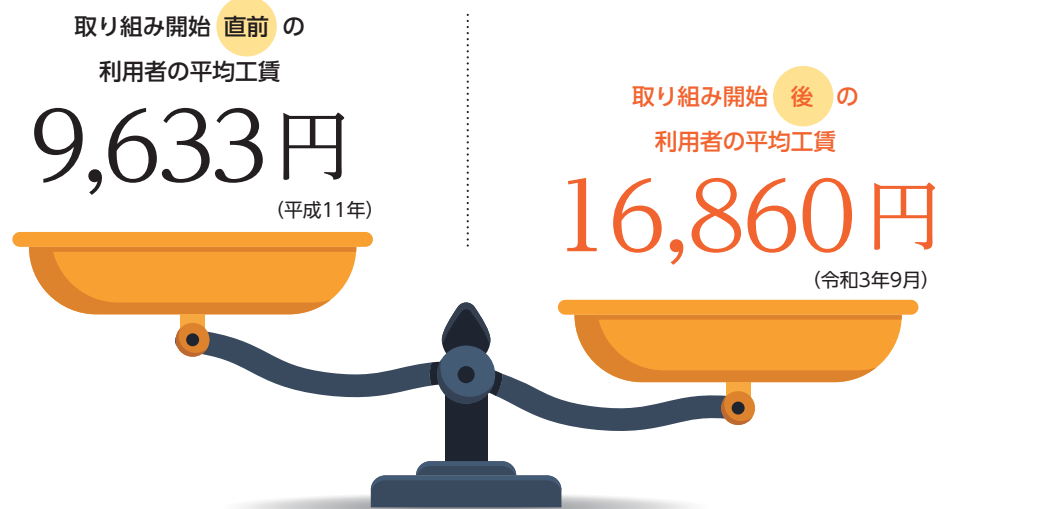
課題 障がい者
スタッフの
生活の質と
幸福度の向上

対応 就労支援のプロセスを透明化していこうという国際的な動きがあるなか、ベトナム内でも労働搾取や低賃金が排除される動きがあります。センターも労働搾取や低賃金の排除に強く関心を寄せており、労働時間や給与、健康保険などの労働規則の徹底、モチベーションアップややりがいにつながるような、能力を最大限に発揮できる環境整備に努めています。

また、同センターには見本市、体験ツアー、学生、教師、労働者との会合などの文化交流活動を行い、障がいの有無にかかわらずさまざまな方と頻繁にコミュニケーションを図ることができる環境が備えられています。

工賃の変動

他組織・団体と共同で製品を製作するためのネットワークづくりや製品の改良・新規開発、販路拡大に努め、障がい者スタッフ一人ひとりに適した新しい技術や機械の導入でパフォーマンスを向上させ、工賃向上をめざした成果が表れました。



反応・効果

障がい者
スタッフ
への反応・効果

ホープセンター Hue は労働規則を誠実に守っているため、障がい者スタッフの生活の質は保障されています。また、同センターが行う多くの組織・団体と共同の仕事や文化交流で友人ができるスタッフが多いそうです。

事業所
スタッフ
への反応・効果

当初は、「障がい者はひとりで働くことができない」、「障がい者は役に立たない」と偏見をもつ方がいたといいます。偏見は、同センターの製品・サービスに対する信頼度の高まりとともに徐々に払拭され、障がい者を社会の一員と受け入れる職場風土が育ちました。

その他
の反応・効果

障がいの有無に関係なく多様な人々が異なる分野の知識や経験、価値観をもち寄ることで、製品やサービスの新規開発や改良のための新しいアイデアが生まれています。

★ 展望・課題



他組織・団体と連携しながら、障がい者スタッフが能力を最大限に発揮できる環境、福利厚生を提供し、今後もこの事業を継続したいと、センターは考えています。

一方フエ市内には他に同センターのような組織がなく、第二、第三のセンターを作ってほしいという声があります。マネジメントや財源の面に困難さがあるため、現状維持が続いており、今後の対応策の検討が課題であるといいます。

ホープセンター Hue の SDGs への取り組み

民間組織であるホープセンター Hue は、フエ市人民委員会の支援を受け、無償で土地を使用することができます。毎年のように起こる洪水や暴風雨の影響を受けることが少ない土地で、機材破損の恐れがないため大変助かっているそうです。

運営補助金のないなか、行政組織や関係団体とのパートナーシップが、同センターのバリューチェーン上の役割を確立し、魅力ある商品開発や顧客確保につながっているのです。

